



発行 公益社団法人
武蔵野市シルバー人材センター
編集 広報編集委員会
武蔵野市中町 3-5-16
電話 0422-55-1231 (代)
URL <http://www.musashino-sc.or.jp/>

200(春)号 もくじ

■絆200号・平成28年度にあたって	1
■派遣事業について、職員ごあいさつ	2～3
■絆200号記念特集ページ	4～7
■武蔵野・ぶらり・時空旅	8～9
■私のふるさと	10
■むさしのSCトピックス	11
■ひろば、新入会員、お亡くなりになった方、 編集後記	12

絆200号・平成28年度にあたって

会長 山中 一成

「絆」が200号を達成。37年かけての快挙で、関係者の皆様に心からお慶びと感謝を申し上げます。



平成27年度の実績は、会員皆様の誠意ある活躍に係らず、厳しい決算となりました。大きな要因に民間企業、家庭事業の減少があり、一部体制の改善を始めています。会員数は10月以降増加傾向となり、更に増加対策を打ち出していますので期待できるものと思っています。なお昨年度は、組織・人事面で大幅に更新、新体制へと移行しました。内外の厳しい環境の変化に対応するためと言えます。事業活動の面におきましては、地域への貢献という目的推進のために、市との関連が更に強化されたと言えます。「産前産後ヘルパー」「いきいき支え合いヘルパー（要支援1、2）」の受け入れ体制もでき始動しています。学習支援事業は、初年度として実績を挙げ、さらなる充実が期待されています。

また、市の防災活動の一環としての協力依頼があり「安否確認コーディネーター」を地区毎に選出、防災訓練にも参加し、従来無かった事業が加わったわけです。

周知の通り「シルバー派遣事業」の実施を決定し本年3月に第1回の会員説明会を行いました。平成18年6月の「高年齢者雇用安定法」の改正により、シルバー人材センターも派遣事業が可能となり、これまで地方のセンターが主に実施していましたが、東京でも本格的に展開する状況となりました。

昨年5月に東京しごと財団により、適正就業巡回指導があり、事務処理・字句などで細かい指導があ

りましたが、大過なく済むことができました。

今後、適正就業に関する指導は、一層厳しくなるものと予想されます。

平成28年度にあたって「事業計画」が既にお手元に届いていることと思いますので、併せてご理解いただければ幸いです。

各目標数値が昨年度と同じようになり、マイナス予算が今年度も続き、健全な財政予算とは言えません。平成26年度契約高が対前年度比増でしたが、平成27年度は対前年度比大幅減となり、再度チャレンジする意味も含めております。

事業運営では、昨年度に芽生えた芽を実のなるように育てることが肝要となります。減少した民間企業、家庭事業の職種別対策を計画し、既に清掃事業において対策を始めました。派遣事業参入にあたっては、あくまで「請負、委任」事業を基本ベースにして、目標を1%程度からスタートします。また派遣事業は、最近の労働問題に係っている点もあり、シルバーの「臨・短・軽」という原則論に対しても、どんな影響を与えるか動きに注意する必要があります。

現在の超高齢社会において、シルバー人材センターは「労働・福祉・地域コミュニティの担い手」である、と言う事が事業目的でもあり、ミッション事業でもあると認知されています。今後、団塊世代が75歳になる社会を迎える時、シルバーの存在価値として、使命としての機能を更に高め、受動的から能動的へ「支えられる人から支える人へ」と変わっていくことを求められていると捉えるべきでしょう。そのために現状と現況の変化を把握、考慮しながら変化。発展へと一步一步前向きに進むことを要求されています。

先進的使命を果たすべく、会員、役職員の皆様と共に、身近なところから助け合って前進していきましょう。

安全と健康といきがいの感動を忘れずに！

派遣事業について ～ Q & A で疑問を解決 ～

広報編集委員会

平成28年度より派遣事業が新規事業として導入されます。派遣事業についてお寄せいただいている質問について事務局 平野次長に解説してもらいました。

なお、今後の法令の改正により、内容が変わる場合がありますので、ご承知おきください。

Q1 シルバー派遣事業とは何ですか。

A1 シルバー人材センターは、法令により国（厚生労働省）に届け出ることによって労働者派遣事業（シルバー派遣事業）を行うことができるようになりました。ただし、就業の範囲は、現在の請負・委任と同様、臨時的、短期的、軽易な業務に係る範囲内とされています。

臨時的・短期的…生計の維持を目的とした本格的な就業ではなく、任意的な就業を意味し、連続的または断続的な就業です。

軽易…業務の処理に要する一週間あたりの就業時間がおおむね20時間を超えない業務に係る就業です。

また、しごと財団が派遣元事業主となり、財団と会員さんが雇用契約を結びます。武蔵野市シルバー人材センターは派遣事業所となり、発注者へ会員さんを派遣します。なお、雇用契約を結ぶことにより、労災保険へ加入します。

Q2 今までの就業とは何が違うのでしょうか。

A2 請負・委任（今までの就業）…予め契約書にて締結された内容を完了させるお仕事。契約書に記載されている以外のお仕事は受けられない。

例）清掃のお仕事：部屋Aを清掃する契約になっている。今日は部屋Bもお願いしたい
→会員さんに直接の指揮命令はできない。内容の変更や追加の依頼はシルバーの担当者を通じて。

派遣…予め契約書にて締結した内容に沿って、現場での指揮命令に従って就業する。

例）清掃のお仕事：部屋を掃除する契約になっている。今日は部屋Bを掃除して欲しい
→その場で受けることができる。

とはいえ、現在の「請負・委任」の働き方がなくなるわけではありません。主な契約は「請負・委任」であることに変わりなく、働き方に「派遣」が加わるというイメージです。

	シルバー派遣事業	請負・委任
契約当事者	財団（連合本部）	シルバー人材センター
事業実施形態	財団（連合本部）による雇用	シルバー人材センターから再請負・再委任
指揮命令	あり	なし
報酬	賃金（最低賃金法適用）	配分金
加入保険	労働者災害補償保険	シルバー総合保険

Q3 どんな内容の仕事がありますか。

A3 先行している他地区のシルバー人材センターでは、受付・経理事務、デパート・スーパーの品出しなどの仕事に取り組んでいます。

ただし、武蔵野市シルバー人材センターでは、残念ながら、現在のところ具体的なお仕事の依頼はありません。引き続き、企業や市役所への営業活動を行ってまいります。

Q4 だれでも登録できて、すぐに仕事に就けますか。

A4 派遣登録できるのは、武蔵野市シルバー人材センターの会員さんであることが前提です。登録したからと言って、すぐに仕事に就けるわけではありません。発注者との契約があって初めて就業があり、最も適した会員さんを選考し、就業していただきます。

Q5 何か特別な資格や技能が必要ですか。

A5 発注者が求める資格や技能が必要となります。それも大事ですが、時間や就業上の秘密情報を守ることが大事であり、また派遣先の職場のマナーをしっかりと守れる人が発注者の信頼を得られると考えます。

Q6 現在、就業中ですが、合わせて派遣もできますか。

A6 「派遣」と「請負・委任」の兼任は、就業規則上できないとされています。「雇用」という意味では、「派遣」に専念していただく必要があります。健康管理上も就業日数・時間が多くなることは好ましくありません。

ただし、市報配付やふれあい収集など、一部例外的に兼業ができるものがあります。

Q7 ケガをしたり、何か物を壊してしまったときは、今まで通りシルバー保険の対象となりますか。

A7 派遣事業では、会員は派遣先で従業員として働くので、何か物を壊してしまったときは、発注者が対処する、というのが原則的な考え方です。したがって、そのようなときは、発注者にすぐに相談し、その後シルバーに報告をお願いします。ただし、発注者からその結果、会員様やシルバー人材センターに対して補償を要求されることも十分あり得ます。また、就業上のケガについては、労災保険が適用されますので、シルバーにご相談ください。

Q8 派遣は配分金ではなく賃金だと聞きました。源泉徴収や年末調整があるのですか。

A8 派遣事業は雇用契約を結ぶので、賃金として支払われ、所得税が源泉徴収されます。また、年末には年末調整を行うため、配偶者や扶養家族の状況の確認も行います。

職員ごあいさつ

井田 薫

4月より福祉家事援助コーディネーターを担当させていただくことになりました、井田 薫と申します。

「自主・自立」「共働・共助」の理念の基、会員様とご利用者の橋渡し役を円滑に運んでいきますよう努力して参ります。ご指導、ご協力のほど、よろしくお願いします。

石丸 恵理子

3月末で退職します。福祉家事援助コーディネーターとして1年間、短い間ではございましたが、お世話になりました。

たくさんの出会いの中で、皆様と共に頑張った一日一日に感謝しております。

ありがとうございました。

おかげさまで絆が200号を迎えました

武蔵野市シルバー人材センターは、昭和53年1月 武蔵野市高齢者事業団として事務所を八幡町に設置し、会員406名で設立されました。同年9月に会報誌「事業団だより」創刊号が発行されています。会報誌も年に6回発行から現在では4回になり、名称も事業団だよりから絆へと変わっています。今年でシルバー人材センターも38年目を迎え、会報誌も今回で通算200号となりました。

緑町 新実 信正 様より

「事業団だより」、「絆」を通して200号おめでとうございます。

一口に200号と言っても、その間に職員、会員の皆様も初めてのことばかりで、大変御苦労なさっての、今日の立派なセンターの確立、本当に有難う御座居ました。今後の益々のご発展を心よりお祈りいたします。

発足当時の発信にもあります様に、「仕事を出して貰える市民の喜びの声」、「交流の一部」を取り上げて頂くと更に良いものになるのではないかと思います。

「絆」の編集にいたころ

吉祥寺東町 森口 靖夫

嘱託生活も終え、まだ働けるかなとシルバー人材センターに入会して間もなく、「絆」の編集委員の依頼を受けました。編集の経験も無く、辞退も許されず、熊谷さん、村居さん、藤野さんの指導を受けながら5年ほど編集のお手伝いをしました。と言っても、編集委員長長の指示を受けて動いただけで、このように寄稿するなどおこがましく困っております。センターでは自分の仕事の他は分かりませんが、編集委員会にいるのは、他の担当やセンター全体の動きが分かり、意外と面白いことでした。



「絆」の編集では記事集めがたいへんで、特に編集委員長はご苦労だとお見受けしました。私は講演会の記事をよく担当しましたが、講演の内容のゲラも無いときは苦労しました。自分でカセットテープに録音・再生し、原稿を起こすのは辛い作業でした。記事が足りず、編集委員が自ら原稿を書かねばならないときは、文才も無く困りました。書評を書くときも冷や冷やものでした。あのときは宮城谷昌光さんの作品を取り上げましたが、それで内容は良かったのか、今でも思い出します。身体も動かなくなりセンターを辞めてからは、「絆」を見る機会も無くなり淋しいです。今回「絆」の200号記念号が発行されると聞き期待しています。150号記念号の時は一面の印刷が綺麗に仕上がらず、編集委員会一同がっかりしたことが思い出されます。人材センターと「絆」編集委員会のますますのご活躍をお祈りいたします。

「絆」に携わって

吉祥寺東町 藤野 博

退職後、地元との繋がり、そして陽の当たる場所での仕事に携わりたいと、平成7年より会員になり、幸い第一浄水場の清掃の仕事ができました。満開の桜はすばらしいものでしたが、花びら、花の萼(がく)、落ち葉掃きと快い汗をかきました。

一緒に仕事をしていた理事の小高氏の任期満了で後を引き継ぎました。平成9年からです。広報部会に所属し、絆との出会いです。すぐに20周年記念誌の発行が部会長に落合氏、副部会長に相原氏のもとで進められていました。

平成17年157号より、会報は年6回発行から4回に、縦組み一色刷りから横組みフルカラー印刷へ変わりました。また、より会員とのつながりを深め、見やすくするために、写真もたくさん入れるようにしました。取材で現場に行くと、会員の皆さんは生き生きと作業し、快く応じてくれました。

平成20年には、設立30周年記念行事実行委員会が立ち上げられ、行事の一環として記念誌を発行しました。多くの方からご寄稿をいただき、年表作成、写真収集から始まり、取材や座談会と多くの内容を詰め込んだ、ボリュームのある記念誌ができあがりました。ご協力いただいた皆さま、ありがとうございました。編集委員会も何度も何

度も集まり、苦勞して校正やレイアウトを練ったのを思い出します。

平成22年ごろから、原稿のやり取りがフロッピーディスクからUSBメモリーに変わり、パソコンは一気に普及しました。私もパソコンを買い換えましたが、新しいパソコンではUSBメモリーまたはディスクしか使えず、フロッピーディスクに保存していたデータが呼び出せなくなり、愕然としたことを思い出します。

平成23年に体調を崩し、平成24年に退任し、今は元気に通院しています。今回、原稿の依頼を受け、手持ちのファイルや会報をめくり、懐かしく色々思い出しました。また、これで良かったのかと反省もしています。和気あいあいと編集に携わってくださった方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

妻のところに配付される会報を読ませていただいています。これからも親しまれる会報を楽しみにしています。

広報編集委員長 伏野 嘉高

昨年の春ごろから、絆200号を記念企画にしようと、広報編集会議でさまざまな意見がでたが、数ページに押さえて派手にならないようなプランに落ち着いた。それぞれの担当が決められて、私は元の編集委員の確認と原稿依頼を担当。数十人の方に連絡を取った結果、幸いにも3人の方がご健在で原稿依頼ができた。

会報誌「事業団だより」創刊号（昭和53年9月25日発）にご寄稿くださった、元都議会議員の新実信正氏。創刊号にご寄稿いただいた方で、唯一ご本人様と連絡が取れたのは新実氏だけである。今回、再度ご寄稿くださったのには感深いものがある。元の広報編集委員長の藤野氏も快く原稿依頼に応じてくださり、当時の編集会議の様子や苦勞話を綴ってくださった。藤野氏は16年にわたり編集委員から編集委員長として担当。「継続は宝なり」のお手本のようだ。森口氏は編集委員を5年担当。苦勞して記事集めに奔走したことや、編集会議の楽しかったことを綴ってくださった。こうした先輩の苦勞を鑑として「絆」をより良き方向に向かう努力をしていくことを強く痛感した。

残念なことに、森口氏から原稿をお預かりした数日後に逝去され、次女の方から父の原稿掲載をとのことで掲載することとした。

200号の発行を機に、更なる充実を期して編集に努力していく所存である。

最後に編集委員の名前を記す。

伏野嘉高、立松正通、加藤之義、小坂強、江森壽見子、佐々木勇一、遠藤真樹、下谷一廣。



境3丁目おおはし
武蔵野市観光機構様より

あの時君は若かった!?

会報誌が創刊された昭和53年はどんな年だったでしょう



八幡町 加藤 邦夫

物価 えんぴつ 1本30円
銭湯 150円
はがき 20円 封書50円
J R 初乗り 80円
タクシー初乗り 330円

出来事 超高層ビルサンシャイン60開館
新東京国際空港(成田国際空港)開港
ディスコブーム
インベーダーゲーム
口裂け女、なんちゃっておじさん
キャンディーズ引退
赤いきつねと緑のためき発売

ヒット曲

①UFO ②サウスポー ③モンスター
④君の瞳は10000ボルト ⑤微笑みがえし
日本レコード大賞 UFO ピンク・レディー
日本有線大賞 ダーリング 沢田研二

映画 野生の証明、柳生一族の陰謀、
スター・ウォーズ、未知との遭遇
サタデーナイト・フィーバー

ドラマ ドラマ人間模様、Gメン'75
赤い激突、人間の証明

(2) 昭和53年9月25日

事業団だより

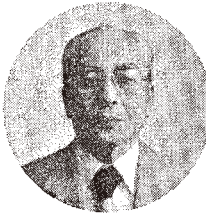
第1号

各方面の理解協力を

「事業団だより」の発展を願う

武蔵野市高齢者事業団

会長 桜井 平八郎



高齢化社会の到来を迎え、高齢者問題が、国際的視野で論議されるようになったことは当然のこととしても、今更、東京

で開催され、老人問題を総合的に討議した、国際老人学会会議を例に見ても、この問題がますます深刻さを増してきている証左にはかならない。東京都はこのような状況のなかで、高齢者対策の一環として、異色といえる高齢者事業団制度を創設し、昭和五十年から今年度末までに、区、市部

事務局だより

事務局の職員を紹介します

男性4人、女性2人 明るく、健かな職場です。

一人一人が良い意味の個性の持主で、事業団創立時からの熱い友情の集まりです。

そこでメンバーの人物評を……

岩間 一（専務） 61才 抜群の集約能力のある親分肌。硬い砂糖のようかと思うときにあらず無類の世話ずきで端正。メンバーの長として十分の貫き、煙草の煙りのように

でもが避けて通れない老齢という関所だけに、主議、思想を超越しての関係者の前向きの協力がよせられていることは事業の運営に真剣にとりくんでいる者にとつて、何物にもかえがたい力強い支えとなっている。

事業団発足以来、団としての足堅めと事業開拓のための忍耐づよい歩みをつづけた結果、事業団に対する認識が漸次地域社会に浸透し、各方面の理解と協力がえられるようになった。そして市民の期待にこたえるため、この運営をゆだねられて

で、いちはやく、市独自の再生作業が事業団に委任されたが悪条件を克服しながら市から派遣された職員に指導により、作業も順調に進んでおり、特に再生品は修復実費程度のバーゲンセールで市民に提供する手法は省資源時代のヒットとして大歓迎をうけている。いうまでもなく、現代はゴミもリサイクルにより有効資源になり得ることが実証済みであるので、インシュレターに依存し過ぎる従来の処理方法は環境問題ばかりでなく、国民経済の面からも検討を要する焦眉の問題となっている。

本事業団もこのような認識の上に立つて、積極的に行政に協力すべきであり、そのためには体制の整備、たとえば市の関係部局に資源再生課といった機構を設け、現場を含めた総合的な管理体制を確立されるよう念願してやまない。

おわりに、本事業団に寄せられている各方面の支援、協力に対し深甚の謝意を表するとともに、将来ともさらにさらに、強力な配慮を懇願申し上げ「事業団だより」創刊のあいさつにかえたい次第である。

伊藤正雄（事務局次長） 48才 常に夢を追うバク的な存在。即戦即決主義。野球が無類の好きとあつて休日は専ら白球を追う。目下は卓をならす麻雀に熱中とか。

菅森紀江（職員） 経 理の仕事なら理屈なく上手で自己探究型。明るくしかも身体を動かすのが自慢。趣味は音楽鑑賞。

田中光子（職員） ど こかしようきんなところが人気で窓口で庶務の仕事。お茶だしから掃除、電話番とそれこそ八面六

写真は、前列右から菅森、岩間、伊藤、後列右から佐藤、田中、河上

◆次号は11月25日発行の予定です。



河上行雄（職員） 66才 技能職の会員さんのお世話をしたり、現場を見た

趣味は油絵。

受託事業職種別取扱実績調べ

	合 計			契約金額
	件数	実人員	延人員	
4	68	101	792	2,402,106
5	92	181	1,314	3,263,719
6	105	211	1,793	4,566,169
7	99	211	2,178	5,514,284
8	106	222	1,179	4,376,130
計	470	926	7,856	20,122,408

積極的な就労を期待してます

事業団に対する仕事の依頼が、相当増えて来ておりますが、特に家事のお手伝いが多くなつて来ており事務局でも、希望会員さんを探すのに苦労しております。家事の手伝い、事務所等の清掃を希望される方は、事務局にご連絡下さい。

その他、働きたいのだが、まだ事務局から何の連絡も無い方が多数いらっしゃいます。事務局からの連絡を待つておられるだけでなく、積極的に電話を下さるか、事務局にお立ち寄り下さい。

働いている会員の皆さん毎日ご苦労様です。事務局と会員の皆様とのパイプ役として「事業団だより」を作りました。今回は創刊号のため、各界の祝辞を多く、いただいた関係上、記事が少なくなりましたが、次号からは、記事も豊富にし、楽しく読んで頂けるようにしたいと考えております。会員の皆様のご意見をお待ちしております。

関山（カンザン） 大変華やかな桜で、赤みの強い豪華な花と同時に見られる若葉が特徴の八重桜です。実はこの桜は皆様にとっても馴染みがあって、桜の葉っぱは桜餅に使われ、花も塩漬けとして使われています。

(1) 昭和53年9月25日

事業団だより

第1号

事業団だより

題字揮毫は後藤市長

創刊号

発行責任者
武蔵野市高齢者事業団

伊藤 正雄

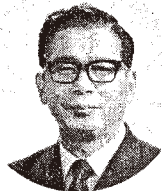
TEL 0422(55)
1231(代表)

聞きたい、聞かせたい

心のかけ橋に

武蔵野市長（名誉会長）

後藤 喜八郎



「事業団だより」創刊おめでとうございます。高齢者事業団も発足以来、はやくも八カ月、順調な足どりで着々基礎固めが進んできました。

「手伝ってくれる人がいなくて困っていたところ、あの人が来てくれて助かりました。」という市民。「今日はあれもして、これもしようと思う」と実がすがすがしい気持ちで目がさめます。「とい

よかった！ おめでとう

限りない発展を期待

武蔵野市議会議長

新実 信正



「事業団だより」創刊号の発行、心からお喜び申し上げます。

高齢者事業団は、設立以来、早や八カ月が過ぎました。事業団役員、事務局の皆様がリード役となり、会員の皆様の手を取り合って支え役となるなど、調和のとれた事業団の発展はめざましいものがあります。

理事即完会は、大変な好評を博し、いまや全国に

う会員の方々。働くことは良いことだ、としみじみ事業団を作ったこと、この感謝しています。

「会は出来たが、さて仕事が出来て困った」ということになりはしないか等と心配しましたが、仕事さがしもあることながら、会員さがしもあること、悲鳴も聞かれる程で、事業団の未来は希望に満ちています。とは申せ、仕事は千差万別、働き先の人々も十人十色、なれた仕事もあれば、なれない仕事もあり、人知れぬ苦勞もおありのことと存じます。

ああもしたい、こうも

知られる存在となりました。

これらのことは、武蔵野市が事務所、作業所、そして補助金など、元氣なお年寄りの方々に喜びと生きがいを生みだすため、最大限の援助を惜しまなかつた点も見逃す訳にはいかないと思います。これは、まさに官民一体となり、それぞれ個々の力が総合された巨大な力の中から生れ育ってきたものと思います。そして、いまや一人立ちし、一人で前を向いて力強く歩こうとしています。

元氣なお年寄りのために一燈を投じたこの事業団は、恐らく世代が変わっても、この武蔵野の地で輝きを増し続け、ひいては全市民を明るく包んでいくものと確信しています。

私も、まだ若い、といつてはおりますが、あと十年もすれば皆様の仲間入りすることになります。このような背景があつてか市議会における討議も将来の高齢者社会を懸念し、その対策と将来像を見出そうと努力がなされております。

このような時、「事業団だより」が、事務局、役員のご努力によつて発刊されることは、事業団が軌道にのり、その体制が整い、会員として市民にその成果を発表できるようなつたことを意味しています。心から「ヨカッタナ……」と感じ、心より「おめでとう」と申し上げます。

最後にこの「事業団だより」が中心となり、事業団がますます発展され、併せて会員の皆様のご健康をお祈りいたします。

このように、事業団の一人として、この「事業団だより」が、事務局、役員のご努力によつて発刊されることは、事業団が軌道にのり、その体制が整い、会員として市民にその成果を発表できるようなつたことを意味しています。心から「ヨカッタナ……」と感じ、心より「おめでとう」と申し上げます。

最後にこの「事業団だより」が中心となり、事業団がますます発展され、併せて会員の皆様のご健康をお祈りいたします。



都議會議員

実川 博

思いやりの心を！

事業団頑張れ

ういう意味で、この「事業団だより」は新事業団拓の場になることでしょ

う。

会員相互の親睦、友人造りから、皆さん方ご自

身の研修の場。さらに「奥さん、この程度のことはおぼえていた方が便利ですよ」というようなことを考える教育の場……等々「事業団だより」

の夢は無限にひろがります。さあ、皆さん「事業団だより」を育てましょう。そしてその中で、生きがいと幸せを育てましょう。

武蔵野・ぶらり・時空旅

7

吉祥寺北町 下谷 一廣

享保の改革と武蔵野新田

今から丁度300年前に時を遡っての旅です。徳川吉宗が八代将軍になり年号が享保となったのが1716年、**享保の改革**の始まりです、目安箱の設置や町火消制度の確立、小石川養生所の設立等々いろいろありますがなんといっても主眼は儉約と財政の再建でした。幕府が開府して100年あまり、五代将軍綱吉の頃には幕府の金蔵は底をついていました。何故すっからかんになってしまったのか原因はいくつかありますが本題からそれてしまうのでここでは詳しく書きません。しかしその要因の一つに年貢率の低下があります。幕政初期には七公三民であったものが吉宗の頃には四公六民になっていました。これも実質的には三割を切っていたと言われています。これを享保13年(1728)五公五民の年貢率に戻して厳しく取り立てたので農民にとっては税が2倍になった感覚だったようです。もう一つの政策が**新田の開発**です。特に武蔵野台地を中心に開発されたのが武蔵野新田で総石高1万2600石の増収を得ようという壮大な計画です、小さな大名並みの石高といえます。

武蔵野新田の武蔵野の定義は多摩郡、入間郡、新座郡、高麗郡の計四郡のことです。上記4つの郡内にある82の村を対象としたものでした。この中で現在の武蔵野市に関係するのは、関前村と境村でした。300年前の吉祥寺村、西窪村、関前村、境村を一通りぐると歩いてみましょう。吉祥寺村は元禄のころまでに開墾がほぼ完了し五日

市街道沿いには酒屋、米屋、お菓子屋、荒物屋などが点在し、村としての体裁ができつつあり、新田を開発する余地はなかったのです。西窪村も同じように元禄時代までに開発が進みこじんまりとまとまっていました。一方関前村や境村は開墾された畑の先には入会地と呼ばれる^{まぐさば}秣場が広がっていました。ここは近隣の農家が自由に入り草を刈り、落ち葉を集め堆肥の供給地として機能していたのです。

こういったところに新田を作るわけで様々な権益や境界などを巡って争い事が起きたといわれています。関前村と境村に隣接した入会秣場を新田として開墾することになったわけですが、これがなかなかうまくいかない、元来地味も悪くススキや萱の類しか育たないところを畑にしようというのですから苦勞の連続でした。

新田開発に取り掛かって10年、元文元年(1736)**大岡越前守(忠相)**が検地総奉行となり、武蔵野新田の広範囲にわたる検地が実施されます。



八代将軍 徳川吉宗 (1684-1751)

江戸南町奉行としてドラマなどにも盛んに取り上げられた大岡越前守、関東地方御用掛としてこんなことまでやっていたんですね。

吉宗が主導した享保の改革、そのブレーン筆頭が大岡越前でした。

町奉行としても辣腕を振るったのはご存知の通りです、彼の最大の功績は、家格や前例にとらわれず次々と有能な人材を登用したことです。武蔵野新田開発が暗礁に乗り上げているときに在野の

地方巧者を起用する思い切った人事を行いました。

スーパー役人(地方巧者)川崎平右衛門の登場

享保7年(1722)にはじまった新田開発、10年以上経ってもなかなか成果が上がらない。開発のための人も集まらず、百姓たちの生活は困窮し離散するものも多く、つづれ百姓となる家も後を絶ちませんでした。



川崎平右衛門(1694-1767)

元文3年(1738)には大凶作。ここで大岡越前の意を受けて登場したのが押立村(現・府中市)の名主・川崎平右衛門。翌元文4年には「南北武蔵野新田世話役」に任命され名字帯刀も許されました。

平右衛門が世話役になって1年資金投下や現地に密着したきめ細かい施策の数々を打ち出し新田経営はなんとか安定し軌道に乗ります。

こう書くとそれまでの関係者はなにをしていたんだということになりそうですが、地方巧者(スーパー役人)平右衛門の施策を見てみよう。

農民にお金を貸し付けるのではなく

- ① 部下に村を廻らせて、1軒ごとに食料や肥料がどの程度あるかないかを調べたり、日頃からどのくらい農業にいそしんでいるかを調べて指導
- ② どの農家も春には食料が乏しくなるので、玉川上水や千川上水の修理や溜まったごみの処理などをさせその対価として麦や稗を与え

てその日の食料に困らないようにした。重労働に従事すれば麦三升、それに次ぐ男、女に二升、箆をもって土運びをする女には一升五合、現場に来て子供のお守りをする娘には一升といった具合にきめ細かく、その日の夕方には支払い次の日の食料に困らないように手配りした。きめ細かいですなー……。その日、その日の食料に困っていた農民にとってはありがたい手配りでした。

- ③ 肥料は値段が一番安い5～6月に江戸の肥料問屋からまとめ買いをし、陣屋にしまっておき、値段の高くなる秋の種まきのころに、買った時の安い値段で貸し付けました。肥料代金を返す時は収穫した穀物で返させ、しかも農民自身がよそに売るときの価格よりも高く買い上げそれを村ごとに貯えさせました。
- ④ 他にも、売れば少しでもお金が儲かるように、紫草(染料)や薬になるシャクヤクを植えさせ、屋敷林には杉、檜、松、栗などを植えさせました。これが後々 国木田独歩を感動させた武蔵野の風景につながっていったのかもしれない。

武蔵野新田とは直接的な関係はありませんが、平右衛門は小金井村の玉川上水沿いに桜の苗木を植えて名所づくりもやってのけたのです。

川崎平右衛門についてあまり知られていないと思いますが、私も資料を読んでこんな人物も深く武蔵野の発展に寄与したのだと改めて思った次第です。

参考資料：武蔵野市史、子ども武蔵野市史。幕政改革の展開—NHK 高校講座

私のふるさと

—— 第10回 岐阜県岐阜市 ——

緑町

たなか
田中

だいかん
大観会員



岐阜市

★田中さんのふるさは岐阜市である。岐阜県は日本に八つしかない海なし県のひとつだが、県内いたるところに清流が走り、美しい水辺の光景があちこちで眺められる風光明媚な所だ。岐阜市は県南部の中央あたり、濃尾平野に流れ込む長良川扇状地の扇頂部に位置する。町のシンボルはなんと言っても長良川と金華山、そして金華山の頂にそびえる岐阜城だろう。田中さんに美しいふるさを語ってもらおう。

●私は昭和13年7月に岐阜市内で生まれました。3人兄弟の真ん中です。終戦直前に同じ市内の湊町という所に引っ越しました。空襲が激しくなって強制疎開させられたのです。同じく疎開してきた父親の姉家族と妹家族と一緒に大きな家に住みました。伯母さん家族には子供が4人、叔母さん家族は子供が2人。それが全員男子ですから、男の子9人、成人男子は父と伯母・叔母の配偶者たちで3人。ただし引っ越した当初は、叔母さんの旦那は出征中で外地にいました。その後無事に帰還しました。女性は祖母と伯母と叔母の3人。計15人が一つ屋根の下で暮らしていました。言い忘れましたが私の母は昭和19年に病気で亡くなっています。男の子が9人もいるのですから、食事時などそれはそれは賑やかな家でした。

★湊町は明治8年に富茂登村となる前は中河原新田村の一部だった。中河原という地名からわかるように長良川の中州にある土地である。湊町と名付けられたのは、長良川に面し船着き場があったからに他ならない。古くからの街並みが残る風情ある街だった。満7歳の時に移り住んだ田中さんは高校卒業までこの湊町で過ごすことになる。

●父は紋章上絵師だったのですが、疎開前に住んでいた家が空襲で丸焼けになってしまい、道具も失ったので湊町に来てからは別な仕事をしていました。

私の少年時代の遊びは「用水」と呼ばれる、中州を流れる水路での川遊びと野球が主だったような気がします。「用水」は長良川の水を町内に引き込んだもので、幅が2メートル、深さが1メートルほどでした。透き通ったきれいな水がとうとうと流れていました。鮎は入り込んできませんでしたが、ハヤ

(ウグイ)はたくさん泳いでいました。私たちは箱眼鏡で水中を覗いて、ヤスでハヤを突いたりしたのです。

長良川本流で泳いだり、魚を獲ったりということはありませんでした。名物の長良川の鵜飼は5月半ばから10月半ばまでがシーズンですが、オフには鵜匠の人たちが鵜の訓練をしているのを見かけました。

岐阜市というところは野球が盛んでした。昭和21年、22年と都市対抗大会で、岐阜市に本社がある「大日本土木」が連続優勝した影響もあったのでしょう。私も小・中学校時代は野球少年でしたが、小学生の頃は三角ベースでした。また我が家の隣にプロ野球の近鉄パールズ(のちの近鉄バファローズ)の選手が住んでいて、彼が野球のコーチをしてくれました。球は軟球を使っていたのですが、彼が打つとボールが楕円形に変形してしまうのに驚いたのを覚えています。

★頂上に織田信長ゆかりの岐阜城を戴く金華山も、湊町の家から徒歩圏にあった。城は昭和31年に再建されたものだが、現存する城郭の中では有数の高さ(標高329メートル)にあり、最上階からは長良川の流れと伊吹、鈴鹿、木曽御岳などの山々、そして南には木曽川が伊勢湾に流れ込むさまが望めるといふ。この山も田中少年の遊び場だったらしい。

●金華山の登山道で椎の実拾いをしました。皮ごと炒ってから、皮を剥いて食べるのです。熱いうちなら美味しいですよ。後年、境の浄水場で椎の実を拾って孫に食べさせたこともあります。

高校卒業後に上京しました。武蔵野市へやってきたのは昭和51年です。父と兄はすでに無く、岐阜には弟が住んでいますが最近あまり帰っていません。(聞き手 編集部 遠藤)



玉井町 格子戸の町並



清流長良川と金華山(岐阜城)

むさしのSCトピックス

- 12/3(木)～4(金) 安全パトロール(安全管理委員会)
 12/10(木) 第5地域会員研修会
 12/15(火) シルバー体験講習「家事を楽しく」(しごと財団)①
 1/12(火)～18(月) 家事援助地区懇談会(家事援助)
 12日東部、15日西部、18日中部
 1/29(金) ゆうちょ銀行相続相談セミナー(事業部会)
 2/ 2(火) 税務署確定申告相談会(事業部会)
 2/16(火) 「ゆとりえ」に訪問コーラス(コーラス班福寿草)②
 2/17(水) 地域リーダー研修会(研修委員会)
 2/22(月) 会員向けアパート・マンション清掃説明会(研修委員会)
 2/24(木) 家事援助交流会③
 2/25(木) 臨時入会説明会 ―マンション清掃―(研修委員会)
 2/28(日) 東京大マラソン祭り2016ボランティア(社会奉仕委員会)④⑤
 3/ 1(火) 会員自転車無料点検(安全管理委員会)⑥
 3/ 4(金) 会員派遣事業説明会(事務局)



①シルバー体験講習会



②コーラス福寿草



③家事援助交流会



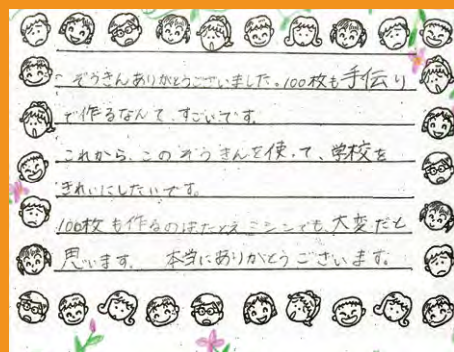
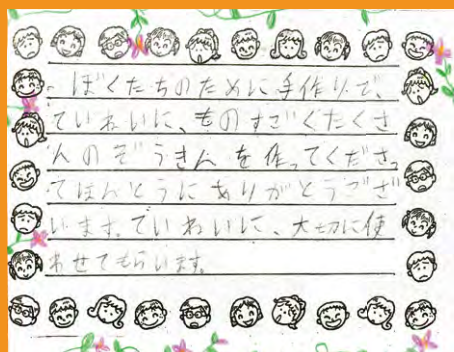
④東京大マラソン祭り



⑤東京大マラソン祭り

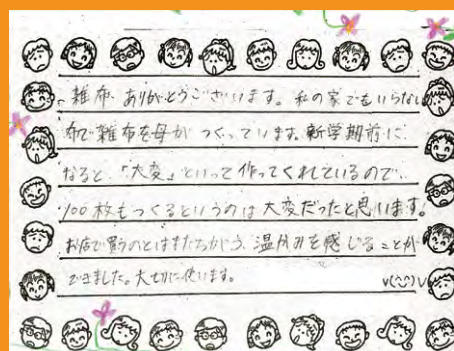
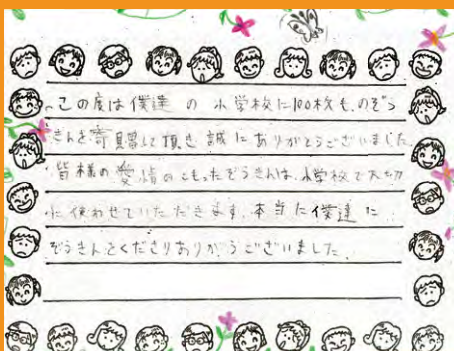


⑥会員自転車無料点検



児童から感謝のメッセージが届きました

2/23市内小学校への雑巾寄贈式(社会奉仕委員会)を行いました
 今年も皆様からお預かりしました雑巾1,610枚を
 武蔵野市教育委員会へ届けてまいりました。



ひろば

マイ・インターン

吉祥寺北町 GONZO

近頃メディアで「インターン」という言葉がかなりの頻度で出てくる。

少し前までは「インターン」といえば、就業体験の学生（特に医学生）を指す言葉であったと記憶しているが…。今ではミドルエイジやシニアまでに広がっているようで、高齢者の再雇用制度も「シニア・インターン」と言われる。さて前置きはこれぐらいにしてこのコーナーの趣旨は映画「マイ・インターン」（原題はThe Intern）を是非見ていただきたいという話。

昨年の10月某日「天声人語」を読んで久しぶりに新宿まで出掛けてこの映画を観たという次第。その記事の一部を引用する。

若き女性経営者のもとに配属されたのは、70歳の元サラリーマンだった。

映画「マイ・インターン」でロバート・デ・ニーロが渋く演じている。

最初は疎まれたものの、次第に会社に不可欠な存在になっていく。経営者の悩みに寄り添い、同僚たちに生活の助言をする。話をよく聞き、決して目立とうとはしない。願わくは、こんな格好いいおじさんになれば…



【初回仕様】マイ・インターン
ブルーレイ&DVDセット（2枚組／デジタルコピー付）
デジタルセル＆デジタルレンタル配信
ワーナー・ブラザーズ・ホームエンターテイメント
© 2015 Warner Bros Entertainment Inc. All Rights Reserved.

70歳のおじさんは定年後、鬱々として徒然なる毎日をごしていたのだが、ふと街中の求人チラシを手に取り応募するところからこの映画は始まる。我々シルバー世代がインターンする際就業先でどのように振舞えば良いのかを示唆するものが存分に含まれていたように感じた。

高齢者の社会への貢献を侮ってはいけな。そんな報告書を世界保健機構がまとめたそうである。お金では計れない役割を家族や地域で果たしていることは間違いない。主役ロバート・デ・ニーロが演じているような人材が増えていけば当センターの活力も大いに向上はす。映画の詳細なストーリーは見てのお楽しみということで割愛するがセンターの会員の方だけではなく関係各位にもぜひ見ていただきたい筆を執った次第である。DVDは2月に発売されました。

編集後記

昭和53年9月25日会報誌「事業団だより」第1号発行以降、名前は「絆」へと変わり、センターの歴史は200号へと継続しています。

私は、絆164号（平成19年4月20日号）に新入会員として紹介されました。164号の主な記事は、定期総会、役員の新任のあいさつ、市報配付の体制づくり、適正就業実施報告などでした。ひろばの武蔵野の七福神巡りの記事を見て、友人と一緒に時間をかけて歩いたことを思い出します。そして編集員募集の記事を見て応募しました。

初めての取材は、コーラスグループ「福寿草」、訪問コーラスに向けての猛練習の様子でした。メンバーはそれぞれ、市報配付、清掃、襖張りなどの仕事を持っていて、仕事が終わる次第駆けつけることもあるそうです。元気に働いて、仲間と一緒に練習し、歌うことの楽しさ、歌は心も体も健康にしてくれます。心に残る楽しい取材でした。

また平成20年3月には、武蔵野市シルバー人材センター設立30周年記念誌の発行に携わることができ、編集委員として幸せでした。今後、益々のシルバー人材センターの発展を願い、会員の皆様の応援をお待ちしております。

（江森 寿見子）